

開講年度	毎年度	開講学期	夏学期	プログラム区分	研究能力開発プログラム		
時間割番号	0204	必修・選択	選択	推奨受講年度	1~3年目	時間数	1
担当講師	能勢真人 (Masato Nose)						
研修題目							
研究者倫理 (Ethics of Researchers)							
研修のキーワード							
科学研究倫理 (scientific research ethics)、創造性と自律性 (creativity and autonomy)、科学コミュニティー (science community)、研究データ管理 (conservation of research data)、研究成果公開 (publication of research outcome)、環境安全 (environment safety)、生命倫理 (bioethics)、研究の病理 (pathology of research)							
研修の目的							
科学研究者として、必要な倫理を学ぶ。							
研修の到達目標							
(1) 科学研究倫理の原則を説明できる				(3) 研究データの信頼性の保証とその管理の方法を説明できる			
(2) 研究の創造性、自律性の重要性を説明できる				(4) 研究成果の発信方法を説明できる			
				(5) 研究の環境・安全についての対策、生命倫理を説明できる			
研修の概要							
<p>科学とは、世界についての知識を集め、その知識を検証可能な法則や原理に凝縮する、組織化された体系的な事業であり、研究者の自由な発想と知的好奇心に支えられるものの、その成果は人類が共有する知の資産として、人類の福祉と社会の発展に生かされるべきものであります。そのため、科学研究の創造性、自律性のみならず、倫理、即ち、正義性、社会性、高潔性・誠実性が堅持されなくてはなりません。これらは、研究者自らが、自己浄化作用として、互いに評価し合うピアレビューを基盤とする科学コミュニティーを形成し、そして透明性の維持と社会への還元を努力する中で育まれてきました。しかし研究組織が複雑化し、大規模になればなるほど、ともすれば研究の病理ともいうべき、科学研究の信頼を失う、また社会的倫理に反する事態が生じかねません。研究者は、自ら、科学研究行動規範を課し、そしてそれを遵守することなしには、科学研究の価値そのものを覆すことになるのみならず、その基盤である社会にたいする責任をも果たし得ないこととなります。この研修の目的は、そのためのルールを改めて学習することにあります。</p>							
学習項目							
1. 人類の共有知的資産としての科学研究				5. 研究データ管理の方法 (研究記録、データ帰属)			
2. 科学研究倫理の原則 (正義性、社会性、高潔性・誠実性)				6. 研究成果の発信 (オーサーシップ、引用、メディア公表)			
3. 創造性・自律性・独創性・信頼性				7. 研究の環境・安全対策、生命倫理、安全保障輸出管理、利益相反			
4. 科学コミュニティー・ピアレビュー				8. 研究の病理 (データの捏造、偽造、剽窃など)			
				9. 愛媛大学科学研究行動規範・同管理規定			
研修時間外に求められる課題に関する情報							
まえもって、愛媛大学の科学研究における行動規範、愛媛大学科学研究行動規範管理規定を確認しておく。							
参考書 (購入する必要はないが、推奨する図書)							
<ul style="list-style-type: none"> ・エドワード・オズボーン・ウィルソン著、山下篤子訳「知の挑戦—科学的知性と文化的知性の統合」、角川書店、2002 ・科学倫理検討委員会編「科学を志す人びとへ—不正を起さないために」、化学同人、2007 ・米国科学アカデミー編、池内了訳「科学者をめざす君たちへ—研究者の責任ある行動とは」第3版、化学同人、2010 ・国際医学雑誌編集者委員会 (2010) 生医学雑誌への投稿のための統一規定： http://www.toukokuitei.net/4aURM201004.html 							
連絡先		能勢真人 masanose@mehime-u.ac.jp					
参照ホームページ		先端研究・學術推進機構 學術企画室 http://www.ehime-u.ac.jp/information/organize/research_center/kiksaku.html					
その他							